

奈良市八条・大安寺周辺地区 まちづくりに関するとりまとめ

AIタウン構想具体化検討会

1. AIタウン構想具体化検討会 開催概要

	テーマ	議事	日時	場所
第1回	MaaS・モビリティ	- AIタウンエリア関係事業者による10年後を見据えた取組み - 有識者委員及び民間事業者による話題提供、意見交換	令和4年12月28日(水)14:00～16:30	新大宮セミナールーム
第2回	新エネルギー	- 民間事業者による話題提供 - 意見交換	令和5年2月9日(木)9:00～11:00	奈良県コンベンションセンター

2. 委員等

座長	東 博暢(日本総合研究所 主席研究員、大阪公立大学 特任教授)	関係事業者	奈良交通株式会社
委員	橋爪 紳也(大阪公立大学 研究推進機構特別教授・観光産業戦略研究所長)		西日本高速道路株式会社
	藤沢 久美(株式会社国際社会経済研究所 理事長)		西日本旅客鉄道株式会社
	河合 智明((公財)関西文化学術研究都市推進機構 常務理事)	民間事業者	株式会社MaaS Tech JAPAN
	湯山 壮一郎(奈良県総務部長)		株式会社国際電気通信基礎技術研究所
	濱本 健司(奈良県政策統括官)		大和ハウス工業株式会社
			清水建設株式会社

3. 検討会の目的

奈良市八条・大安寺周辺地区の新駅周辺エリアに特化し、本地区におけるまちづくりビジョンの具体化に関し、先進的な都市サービスの展開に寄与する導入機能等について検討を行う。
(AIタウン構想具体化検討会設置要綱第1条および第2条)

4. 検討会における主な意見とまちづくりビジョンの具体化に向けたキーワード

➤ このエリアだからそのエリア特徴の打ち出し

- ・このエリアは新しい交通のゲートウェイとなり、結節点となるだろう。結節点というからには、何と何をつなぐかというコンセプトが重要。
- ・エネルギーや環境といったテーマはどのエリアでも普遍的に入れておくべきもだが、このエリアだからその部分が重要であり、一般的なテーマでなく、特徴的なものを盛り込むことが重要。
- ・100年先にも残るかという視点で、歴史と少し先の未来の先端技術を組み合わせたまちづくりを考えることが重要。
〈キーワード〉交通結節性、新たなゲートウェイ、県内周遊、奈良の歴史・文化、脱ベッドタウン、若年層の流出防止と企業誘致の両立

➤ 民間×行政の連携の視点

- ・住民がどのように参画しながらまちがつくられていくのか、どのように構想を具体化していくのかという視点があると良い。
- ・民間の取組も重要だが、それをまちづくりや自治体の活動にどのように取り入れていくかも大事。
- ・様々な産業創出に向けて、企業にこのエリアを活用してもらい、先端技術をトライアルすることで、世界的な知能が集まる拠点にする。
- ・今後の社会インフラは行政だけが整備・維持するのではなく、民間事業者がその一翼を担うことも増える。将来的には官民連携の取り組みはさらにブーストする。
〈キーワード〉住民参加、先端的な実証フィールド、官民＋金融機関、事業収支性

➤ MaaS推進の課題

- ・これらかの社会課題を踏まえて、どのように活用していくかが肝心。このエリアにMaaSを導入することで周辺地域のみならず、県内全体へどれだけ波及効果を生むかが重要。
- ・データを可視化するとともに、様々なモビリティを総動員しつつ、地域交通システム全体のリ・デザインが重要。
- ・システムやアプリケーション間の連携が弱い。データの分散度が非常に高いのが日本の特徴であり、異なるデータをつなぎ合わせるものが求められる。
- ・データ取得には個人情報管理の難しさがあるが、公的な利用により、住民など受益者にもメリットがあることを伝える必要がある。
〈キーワード〉県内全体への波及効果、地域交通システムのリ・デザイン、情報利用のクリアランス、モビリティ単体から都市全体との連携・統合

➤ モビリティ×新エネルギーの連携・組み合わせ方

- ・新エネルギーは裾野産業も広く、将来にわたって産業発展につながる。このエリアは奈良県の新たな産業集積として十分有効なフィールド。
- ・グリーン成長戦略など政府方針に基づき、水素をはじめとする新エネルギーの活用が進展しており、今後は余剰電力を水素に換えて貯蔵する仕組みも考えられる。
- ・情報通信やデバイスもエネルギーの進化に必要な要素。
- ・先端技術を活用しながらゼロカーボンを進めて行くことは世界的な課題。交通×エネルギーのミックスは必要な視点。
〈キーワード〉ゼロカーボン×最先端技術のミクスチャー、脱炭素×MaaSの国際的関心、水素利用による脱炭素のまちづくり、奈良県産グリーン水素の導入

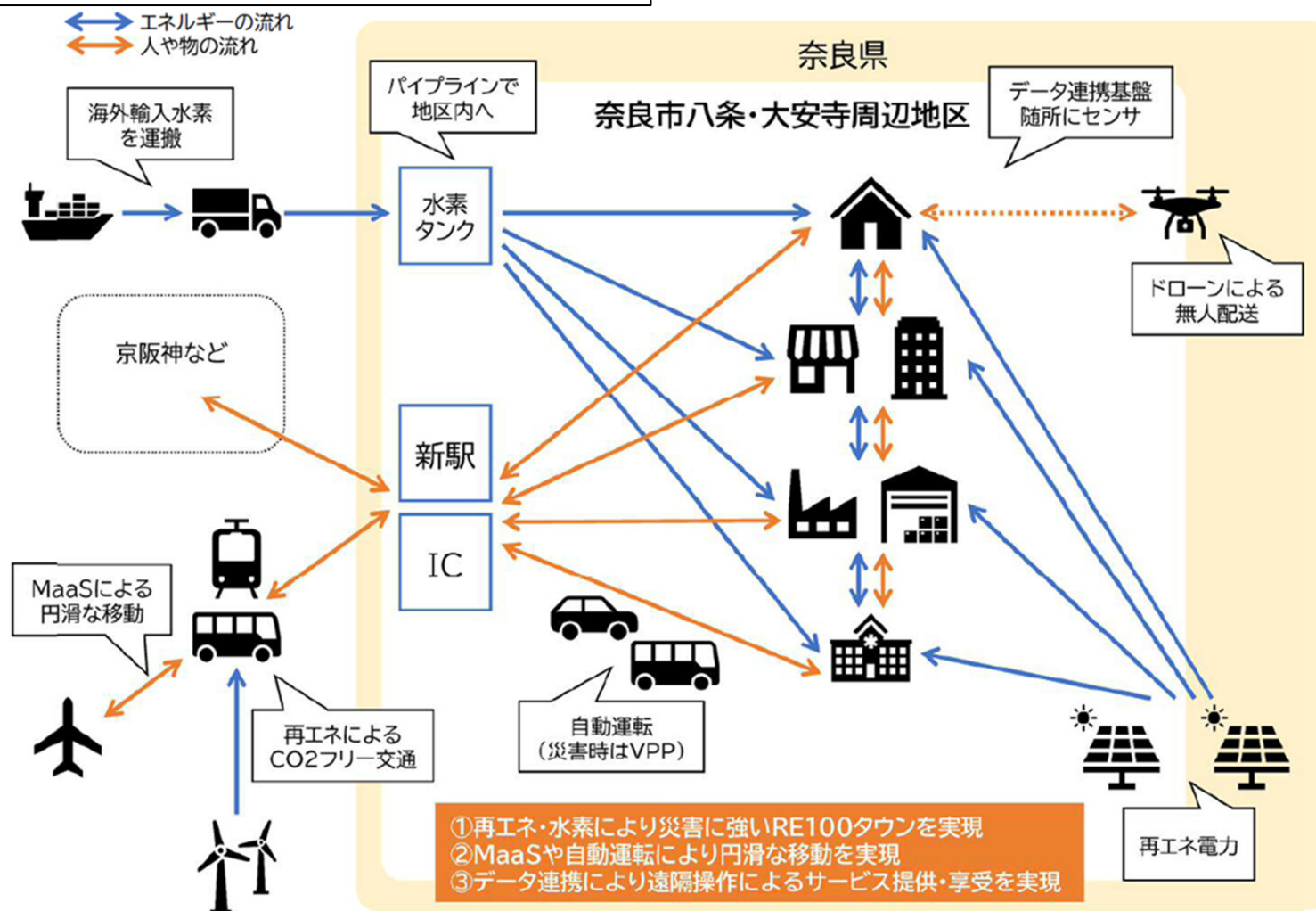
5. 奈良市八条・大安寺周辺地区における先端技術を活用したまちづくりの展開イメージ

MaaS・モビリティ

- 2030年には新駅開通等によるまちびらきが始まり、それまでに自動車の自動運転やデータ連携によるMaaS技術はある程度確立されている。
- このため、まちびらき当初からモビリティや各施設・インフラ等にセンサ等が整備され、センシング等によるデータ収集・管理を通じたMaaSが展開されている。
- ドローン等の空中輸送技術も一定の確立が想定されることから、スマート物流も実現。
- 当該地区に住まい、働く人にとっては、円滑な移動が可能となるだけでなく、交通だけでなく医療や産業などの各種データが連携し、多様な遠隔サービスを提供または享受できる環境にある。また、当該地区が奈良観光の玄関口となる可能性もある。

新エネルギー（再生可能エネルギー・水素）

- 太陽光発電や洋上風力発電等の整備が進み、再生可能エネルギーの導入がますます進むとともに、海外で製造した水素の輸入開始。
- このため、再生可能エネルギーや水素を活用した電気や熱を利用できるインフラ整備（パイプラインやコージェネレーションシステム、EV・FCVやそれに伴う充電ステーション・水素ステーション等）が進む。
- これにより、住宅やオフィス・店舗、工場や倉庫、病院等、地区内の各施設がRE100を達成し、当該地区全体が「RE100タウン」として、一定のブランド力を有する。



今後は「住みやすい」だけでなく、「住みたい、働きたい」まちにしていけるためのハード・ソフト面の充実が重要

「奈良市 八条・大安寺周辺地区
まちづくり基本計画(案)」に関する
意見募集とりまとめ

1. 意見の提出状況等

【募集期間】 令和4年6月8日～令和4年8月26日

【募集方法】 県ホームページに掲載

【意見の提出者数】 団体1件、個人16件

【意見の件数】 23件

2. 意見概要

番号	意見の概要
計画全般に関すること	
1	発展していない場所だと思うので、先進的な街になるようお願いする。
2	若者の意見をしっかりと取り入れて、奈良市出身の子ども達が戻ってくることができる魅力あるまちづくりをお願いする。
3	10年後の未来は先端技術の動向も大きく変わっていると思うので、それらを受け入れられる余地を残したまちづくりをお願いする。
4	奈良の歴史を感じられるまちと新たな技術をうまく織りなしたまちをつくっていただきたい。なんの脈絡もないハコモノを建てるのは住民として反対。
個別事業に関すること	
1	京奈和自動車道インターチェンジ及びNEXCO西日本の管理施設設置について ・新水源中止に伴う対応として更なる配管延長に伴う破損リスクのある老朽化配管、電気制御部分の更新をお願いしたい。 ・飛地水田の補償をお願いしたい。
2	JR関西本線の高架化について ・北側水路の確保をお願いしたい。
3	主要幹線道路整備に伴う農業用水の確保について ・当該地区で今後稲作をつづける必要があるため、全体として新用水の確保と、労働環境の改善につなげた対応をお願いしたい。 大安寺―柏木線拡幅での取水確保 京奈和道建設に伴う八条川付け替えでの取水確保 など ・西九条佐保線の岩井川交差エリアでファブリダム撤去に伴う清水池への取水確保の時期を明確にしてほしい。
4	安心・安全なまちづくりについて ・この地域全体の水害対策の恒久策をいつ示せるのか。安全・安心なまちづくりの点から、新駅開業前に必要だと考える。 ・八条地区から新駅までの安全・安心な移動ルート、手段について明確にしてほしい。
5	まちづくりの基本方針について ・「4安全・安心なまちづくり」が方針の最初(基本方針1)に来るべき。
6	企業誘致 ・市内に働く場所が無い印象。「新産業創造拠点」には、工場を誘致するのではなく、女性や若者が働けるオフィスにしてほしい。 ・誘致する企業の方向性などが決まれば広く公表してほしい。
7	高齢者等の住環境形成事業 ・「高齢者等の住環境形成事業」について介護関連施設の検討の結果について広く市民に共有してほしい。
8	事業の工程について ・市道1号線の整備に関して工程表に明記してほしい。 ・JR新駅やインターチェンジの整備など供用開始時期が遅れることのないように工期を守って進めてほしい。